

数々の賞を受賞したシリーズ
TVドキュメンタリー
映画化!!

シリーズ3.11を多面的に問いなおす

上映会 & 対談

第2弾!

監督・南海放送ディレクター

神戸大学大学院国際協力研究科教授

伊東英朗 × ロニー・アレキサンダー

放射線を浴びた

X年後

無料・要申込

1954年、
南の海で水爆実験が行われた。
被ばくマグロは廃棄され、
漁師たちは病に倒れた。
その後、200万ドルと引き換えに、
すべての魚が日本の食卓にあがった！
「セシウム、機密文書、もろく砕けた人骨…」
見えてきたのは、X年後の驚くべき実態だった。

対象：大学生、一般

*お子様連れOK

主催・申込先：

神戸大学学生ボランティア支援室

E-mail: hq-vol@lab.kobe-u.ac.jp

Tel: 078-803-6256

2015.8.9 (日) 14:00~17:00

会場：神戸大学瀧川記念学術交流会館

2012年 第86回
キネマ旬報
ベストテン
文化映画部門

第50回
ギャラクシー賞
報道活動部門
大賞

平成25年度
日本民間放送連盟賞
特別表彰部門
「放送と公共性」
最優秀

2012
メディア・
アンビシャス大賞
映像部門

第40回
放送文化基金賞
放送文化部門

第一回
グリーンイメー
国際環境映像祭
大賞

第11回
世界自然・野生生物映像祭
審査員特別賞
JAPAN WILDLIFE FESTIVAL
(Special Jury Award)

2012年度
日本映画ペンクラブ
ベスト5
文化映画部門

第30回
日本映画
復興奨励賞

第4回 座・高円寺
ドキュメンタリー
フェスティバル
コンペティション部門
入賞

ハワイ国際映画祭
2013
スプリングショーケース
正式出品

ナレーション：鈴木省吾 朗読：保持卓一郎 撮影：三本靖二/向井真澄 録音：山内登美子 ミキサー：山口誠 音響効果：番匠祐司 企画：口羽則夫/宮部選 特別協賛：大一ガス株式会社
協力：日本テレビ系列「NNNドキュメント」 Special Thanks:日笠昭彦 プロデューサー：大西康司 監督：伊東英朗 製作著作：南海放送 宣伝配給協力：ウッキー・プロダクション 宣伝美術：成瀬慧

映像協力：映画「ビキニの海は忘れぬ」製作実行委員会/「瀬海に生きる」日本ドキュメントフィルム 写真協力：機関紙連合通信社/「第五福龍丸事件」焼津市 2012年/83分/HDCAM/169/カラー/日本/ドキュメンタリー 南海放送開局60周年記念事業 <http://x311.info>

あの日、日本列島は「死の灰」で覆われていた!



1954年アメリカが行ったビキニ水爆実験。当時、多くの日本の漁船が同じ海で操業していた。にもかかわらず、第五福龍丸以外の「被ばく」は、人々の記憶、そして歴史からもなぜか消去されていった。闇に葬られようとしていたその重大事件に光をあてたのは、高知県の港町で地道な調査を続けた教師や高校生たちだった。その足跡を丹念にたどったあるローカル局のTVマンの8年にわたる長期取材のなかで、次々に明らかになっていく船員たちの衝撃的なその後…。そして、ついにたどり着いた、「機密文書」…そこには、日本にも及んだ深刻な汚染の記録があった――。

3.11後の日本に投げかける 衝撃の告発。

地方ローカル局が追った渾身のドキュメンタリー!

南海放送(愛媛県松山市)では約8年にわたり、これまであまり知られることのなかった「もうひとつのビキニ事件」の実態を描いてきた。地元での被災漁民に聞き取りをする高知県の調査団との出会いがきっかけだった。制作した番組は「地方の時代映像祭 グランプリ」「民間放送連盟賞 優秀賞」「早稲田ジャーナリズム大賞 大賞」など、多数受賞。2012年1月に「NNNDキュメント」(日本テレビ系列)で全国放送され反響を呼んだ『放射線を浴びたX年後』に新たな映像を加えた映画化。

■対談者プロフィール

伊東英朗 (いとうひであき) | 監督 / 南海放送ディレクター

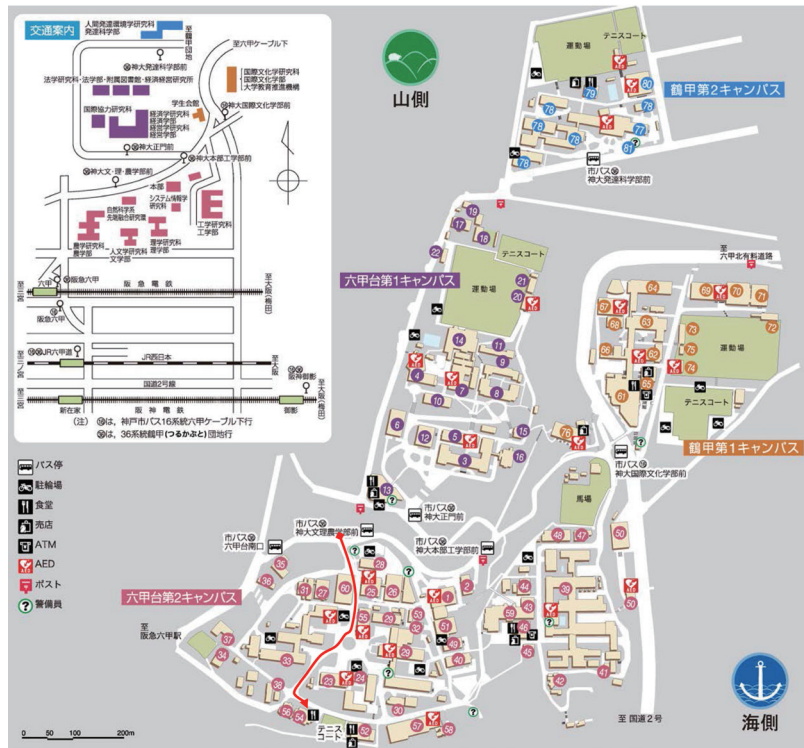
1960年愛媛県生まれ。16年間公立幼稚園で先生を経験後、テレビの世界に入る。東京で番組制作を経験した後、2002年から地元ローカル放送局 南海放送で情報番組などの制作の傍ら、地域に根ざしたテーマでドキュメント制作を始める。2004年にビキニ事件と出合って取材をスタート、同年に発表した番組『わしも死の海におった』で、『地方の時代』映画祭「グランプリ」、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。一連の取材の集大成となる映画『放射線を浴びたX年後』は2012年の全国公開から200ヶ所以上で上映されるなど多大な反響をよび、同年キネマ旬報ベストテン入り、ギャラクシー賞報道活動部門大賞など、数多くの賞を受賞。2014年には、著書『放射線を浴びたX年後』(講談社)を刊行。

ロニー・アレキサンダー | 神戸大学大学院国際協力研究科教授

1977年来日。広島YMCAに勤務後、大学院へ入学。1989年に神戸大学法学部助手、1993年より現職。イェール大学(学士・心理学)、国際基督教大学大学院(修士・行政学)、上智大学大学院(文学博士・国際関係論)。専門は、平和学、トランスナショナル関係論。

太平洋島嶼国における「内発的安全」という研究テーマの中で、核問題、軍事化、軍事基地、環境問題や災害といったテーマをジェンダーというレンズを通して取り上げている。近年は、特にグアムや沖縄の軍事化を取り上げつつ、安全保障研究から抜け落ちている「安心」に着目している。2006年にポーポキ・ピース・プロジェクトを立ち上げ、自作のバイリンガル絵本『ポーポキ、平和って、なに色?』(2007年エピック刊)など、ポーポキのピース・ブックシリーズを活用しながら、学生や市民とともに平和教育や平和活動の実践も行っている。東日本大震災直後に被災地で始めた「ポーポキ友情物語」活動も継続中。

神戸大学 瀧川記念学術交流会館 アクセスマップ



54番: 瀧川記念学術交流会館

JR六甲道駅/阪急六甲駅より
神戸市バス36系統「神大文理農学部前」下車、徒歩10分